



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年8月7日

上場会社名 株式会社 ファルコSDホールディングス 上場取引所 東・大
 コード番号 4671 URL <http://www.falco-sd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平崎 健治郎
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役戦略業務室長 (氏名) 安田 忠史 (TEL) 075(257)8585
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	15,546	0.6	552	△8.7	551	△11.8	262	△4.6
24年3月期第1四半期	15,448	7.4	604	106.8	625	126.4	275	—

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 125百万円 (△46.2%) 24年3月期第1四半期 233百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	21.30	—
24年3月期第1四半期	21.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	36,316	12,989	35.8
24年3月期	36,172	13,143	36.3

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 12,989百万円 24年3月期 13,143百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	11.00	—	11.00	22.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	13.00	—	11.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 有

平成25年3月期第2四半期末配当金(予想)の内訳 普通配当11円00銭 記念配当2円00銭

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	62,000	1.9	2,200	1.5	2,100	0.6	1,000	46.0	80.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社は年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期(累計)の連結業績予想は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 有

④ 修正再表示： 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年3月期1Q	12,980,177株	24年3月期	12,980,177株
25年3月期1Q	757,724株	24年3月期	607,764株
25年3月期1Q	12,324,594株	24年3月期1Q	12,795,480株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) セグメント情報等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興を背景に国内景気は緩やかな回復の兆しが見られるものの、欧州の金融不安等を背景とした世界経済の減速や長期化する円高の影響から、依然として先行き不透明な状況で推移しております。

当社グループを取り巻く受託臨床検査市場及び調剤薬局市場におきましては、診療報酬及び調剤報酬の改定や薬価改定の影響に加え、同業社間の競争が激化しており、厳しい市場環境が続いております。また、ドラッグストア市場におきましては、個人消費は回復基調にあるものの、消費者の低価格志向や節約志向は依然として根強く、同業社間の出店競争や価格競争もより一層厳しい状況となっております。

当社グループでは、このような経営環境のもと、グループ内の事業再編を進め、コスト構造の見直しを図るとともに、各事業において収益力の向上に取り組んでおります。

このような状況のもと、当第1四半期連結累計期間の売上高は15,546百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益は552百万円（同8.7%減）、経常利益は551百万円（同11.8%減）、四半期純利益は262百万円（同4.6%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 臨床検査事業

臨床検査事業につきましては、検査項目の拡販及び新規顧客の獲得に努めるとともに、医療情報システムの販売強化などにより周辺事業の売上拡大を図り、収益力の向上に取り組んでまいりました。

このような取り組みの結果、臨床検査の受託検体数の増加や医療情報システムの売上の増加により、臨床検査事業の売上高は7,655百万円（前年同期比5.8%増）、営業利益は484百万円（同58.0%増）となりました。

② 調剤薬局事業

調剤薬局事業につきましては、当第1四半期連結累計期間において、関西を中心として西日本エリアに調剤薬局を展開する(株)ファルコクリニカルプランとその持株会社である(株)ファルコファーマシーズを統合し、調剤薬局事業の経営資源の一体化と業務効率化を推進するとともに、既存店の来客者を増やす取り組みを行ってまいりました。また、当第1四半期連結累計期間において、1店舗を開局、2店舗を閉局したことにより、当四半期連結会計期間末における当社グループが運営する調剤薬局等店舗総数は115店舗（フランチャイズ店6店舗、ドラッグストア併設店13店舗含む）となりました。

このような取り組みの結果、既存店の処方箋枚数の増加により調剤薬局事業の売上高は4,304百万円（前年同期比2.9%増）となりましたが、薬価及び調剤報酬の改定の影響により営業利益は117百万円（同58.6%減）となりました。

③ ドラッグ事業

ドラッグ事業につきましては、引き続き、売場再編成・品揃えの見直しとともに、店舗関連経費の削減、店舗別の収益管理の徹底などコスト構造の見直しに取り組み、収益力及び競争力の向上に努めております。

しかしながら、既存店の来客数の減少などにより、ドラッグ事業の売上高は3,587百万円（前年同期比11.2%減）、営業損失は25百万円（前年同期は47百万円の営業利益）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産は、前連結会計年度末に比べ144百万円増加し、36,316百万円となりました。これは主に棚卸資産及び売上債権等が増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ298百万円増加し、23,327百万円となりました。これは主に仕入債務等の増加によるものであります。

また、純資産は、剰余金の配当等により前連結会計年度末に比べ153百万円減少し、12,989百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ565百万円減少し、4,850百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は640百万円となりました。これは主に、仕入債務の増加1,045百万円によるものであります。

投資活動の結果使用した資金は341百万円となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出210百万円及び有形固定資産の取得による支出104百万円によるものであります。

財務活動の結果使用した資金は864百万円であります。これは主に、長期借入金の返済による支出993百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の連結業績予想につきましては、平成24年5月11日の「平成24年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び一部の連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,496	4,897
受取手形及び売掛金	6,499	6,908
商品及び製品	2,628	3,067
仕掛品	217	61
原材料及び貯蔵品	390	387
その他	1,104	1,355
貸倒引当金	△71	△72
流動資産合計	16,266	16,605
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,885	11,144
減価償却累計額	△5,463	△5,798
建物及び構築物(純額)	5,422	5,346
土地	4,698	4,698
リース資産	2,887	2,730
減価償却累計額	△1,653	△1,587
リース資産(純額)	1,234	1,143
建設仮勘定	279	300
その他	8,278	8,224
減価償却累計額	△7,138	△7,166
その他(純額)	1,140	1,058
有形固定資産合計	12,774	12,548
無形固定資産		
のれん	1,097	1,057
その他	411	379
無形固定資産合計	1,509	1,436
投資その他の資産		
その他	5,699	5,800
貸倒引当金	△78	△74
投資その他の資産合計	5,621	5,726
固定資産合計	19,905	19,711
資産合計	36,172	36,316

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,784	7,603
短期借入金	3,450	3,450
未払法人税等	600	289
引当金	687	348
その他	4,026	4,174
流動負債合計	15,548	15,866
固定負債		
長期借入金	3,817	3,842
退職給付引当金	1,513	1,531
役員退職慰労引当金	1,005	1,011
資産除去債務	215	216
その他	928	859
固定負債合計	7,480	7,461
負債合計	23,029	23,327
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,371	3,371
資本剰余金	4,037	4,037
利益剰余金	6,298	6,424
自己株式	△503	△647
株主資本合計	13,203	13,186
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△60	△197
その他の包括利益累計額合計	△60	△197
純資産合計	13,143	12,989
負債純資産合計	36,172	36,316

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	15,448	15,546
売上原価	11,049	11,247
売上総利益	4,399	4,298
販売費及び一般管理費	3,794	3,746
営業利益	604	552
営業外収益		
受取配当金	23	27
貸倒引当金戻入額	14	2
その他	31	21
営業外収益合計	69	50
営業外費用		
支払利息	33	31
その他	15	20
営業外費用合計	49	51
経常利益	625	551
特別利益		
負ののれん発生益	96	—
営業権譲渡益	—	10
その他	0	—
特別利益合計	96	10
特別損失		
固定資産除却損	5	3
投資有価証券評価損	5	6
退職給付費用	12	—
その他	38	—
特別損失合計	62	10
税金等調整前四半期純利益	659	551
法人税、住民税及び事業税	382	294
法人税等調整額	2	△5
法人税等合計	384	289
少数株主損益調整前四半期純利益	275	262
四半期純利益	275	262

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	275	262
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△42	△137
その他の包括利益合計	△42	△137
四半期包括利益	233	125
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	233	125
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	659	551
減価償却費	452	391
のれん償却額	46	39
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△13	△2
退職給付引当金の増減額(△は減少)	9	24
賞与引当金の増減額(△は減少)	△360	△323
受取利息及び受取配当金	△26	△29
支払利息	33	31
投資有価証券評価損益(△は益)	5	6
負ののれん発生益	△96	—
売上債権の増減額(△は増加)	97	△430
たな卸資産の増減額(△は増加)	△472	△280
仕入債務の増減額(△は減少)	939	1,045
その他	△304	217
小計	971	1,242
利息及び配当金の受取額	25	28
利息の支払額	△28	△21
法人税等の支払額	△836	△608
営業活動によるキャッシュ・フロー	131	640
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△225	△104
無形固定資産の取得による支出	△32	△28
投資有価証券の取得による支出	△160	△210
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	55	—
その他	△17	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△381	△341
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△80	—
長期借入れによる収入	200	500
長期借入金の返済による支出	△668	△993
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△176	△108
配当金の支払額	△130	△120
自己株式の取得による支出	△64	△143
その他	—	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△920	△864
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,169	△565
現金及び現金同等物の期首残高	5,395	5,416
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,226	4,850

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。
- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(6) セグメント情報等
(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	臨床検査 事業	調剤薬局 事業	ドラッグ 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,238	4,168	4,041	15,448	—	15,448
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	15	—	15	△15	—
計	7,239	4,183	4,041	15,464	△15	15,448
セグメント利益	306	284	47	638	△33	604

(注) 1. セグメント利益の調整額△33百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△342百万円及び内部取引の消去に伴う調整額308百万円が含まれております。全社費用は、主に人事・経理部門等の管理費用及び建物の減価償却費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	臨床検査 事業	調剤薬局 事業	ドラッグ 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,655	4,302	3,587	15,546	—	15,546
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	1	—	1	△1	—
計	7,655	4,304	3,587	15,548	△1	15,546
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	484	117	△25	577	△25	552

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△25百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△347百万円及び内部取引の消去に伴う調整額321百万円が含まれております。全社費用は、主に人事・経理部門等の管理費用及び建物の減価償却費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(営業費用の配分方法の変更)

各報告セグメントの営業費用の負担を明確化し、業績管理をより適切に行うため、当第1四半期連結会計期間より、ドラッグストア(調剤薬局併設店)の営業費用の配分方法を変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、第1四半期連結累計期間の「調剤薬局事業」のセグメント利益が16百万円減少し、「ドラッグ事業」のセグメント損失が16百万円減少しております。